シロカネソウ属（キンポウゲ科）品種学名の訂正（大場秀章）
Hideaki OHBA: *Dichocarpum trachyspermum* f. *didymocalyx* (H.Ohba) H.Ohba, comb. nov.

本誌75巻（2000年）にアズマシロカネソウの重弁品について発表した．その後，この重弁品を発見した栃木県在住の松澤篤郎氏から，新たな資料と写真を送付いただき，これがトウゴクサバノオではとのご教示をいただいた．タイプを再検討したところ，この重弁品は松澤氏が指摘する通りトウゴクサバノオに属するものであったので，謹んで学名を訂正したい．

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang & P.K.Hsiao
f. **didymocalyx** (H.Ohba) H.Ohba, comb. nov.
Dichocarpum nipponicum (Franch.) W.T.Wang & P.K.Hsiao f. *didymocalyx* H.Ohba in J. Jpn. Bot. **75**: 370 (2000).

（東京大学総合研究博物館）

新　刊

□Rajbhandari K. R. and Bhattarai S. **Beautiful Orchids of Nepal** 220 pp. 2001. Authors. Rs. 1200.

ネパールには97属363種のラン科植物が生育していると，この本では言っていて，そのうちの101種が写真と共に紹介されている．

それぞれ1ページに見開きで1種を紹介しているので，使いやすい案内書となっている．写真の質は，ピンボケや退色もあり，書名のとおり「美しい」ランではあっても美しい写真，とは言いがたい何点かがあるが，写真のアングルが非常に適切で，それがほかの欠点を補っている．

殆んどが花の拡大写真で，花の構造が，特に唇弁の特徴がよくとらえられている．実は，これがラン科植物には重要で，日本には「美しい」ランの写真があふれている割に「使える」写真が少ないのは，撮影する側と使う側の意識が足りないためではないかと，この本で再確認させられた．

花のアップだけの写真が多いため，植物体の情報は少ないのが残念だが，一味ちがう，ユニークな案内書として，役に立つと思われる．

それぞれの種についての短い記載も，適切で，花期や生育地の標高もおさえてあるのは，当然とはいえ親切である．ただ，ネパールおよび近隣諸国にまたがる生育地はいいとして，それ以外の地域は確認しているかどうか，全体の分布をおさえているわけでもないようなので，気休め程度と考えたほうがいいと思う．

（中島睦子）

□三橋　博，岡田　稔（監修），和田浩志，寺林　進，近藤健児（編集）：**新訂　原色和漢薬草大図鑑** 822 pp. 2002. ¥35,000. 北隆館．

1988（昭63）年に原色版牧野図鑑シリーズの一つとして本図鑑の初版が刊行されて以来，早や15年が経過した．この間，薬用植物の研究・生産・利用・流通については，大きな進展と変化が見られる．本書は，内外の生薬・民間薬・製薬原料・健康食品原料・化粧品原料植物約1400種を網羅して収載し，全部原色図版をもって，その生態を含めた自然の状態をできるだけ忠実に表現することに努めている．特に，植物学的な外部形態・諸器官の詳細な図解に止まらず，薬用部分の説明を加えて，本書の利用目的に沿う努力が払われている．

各項目の解説として，分布・形態・薬用部分・成分・薬効と薬理・薬用としての使用法が，簡潔ながら要領よく記述されている．この新訂版においては，新しく巻頭に768種に及ぶ生薬の写真早見表が加えられ，番号表示によって容易に本編の原色植物図と対照することができる．また，巻末の薬草使用法，有毒植物一覧表，特に，化学構造式を含めた成

分一覧表は，本書の利用者に多大の便益を提供している．

なお，追録として，最近使用されている薬用植物やハーブの写真集が加えられた．新訂版においては，旧版に比べ，以上のような種々の改良がみられているが，本書の価値を一層高めるためには，生薬早見検索表のメークアップを改善し，写真の色彩をより自然色に近いものにするとか，縮尺を入れて実際の大きさを対比し易くするなど，学術書としては，なお一工夫が望まれる．（柴田承二）

□ロイ・ヴィカリー（著），奥本裕昭（訳）：**イギリス植物民俗事典**．2001．￥7,800（税別）．八坂書房．

本書は，Oxford University Press から1995年に出版された，Roy Vickery: A Dictionary of Plant-Lore の翻訳である．著者のヴィカリーはロンドン自然史博物館顕花植物部門に勤務し，標本の出入れや貸出し等の業務を担っている．同部門を訪れた人は痩型長身で忙しく働くヴィカリーのことを思い出すに違いない．

ヴィカリーはこうした仕事の一方で，植物の民俗学についての研究を精力的に行ってきた．その成果としてこれまでに，単行本として Holy Thorn of Glastonbury（1979年），Unlucky Plants（1985年）を著し，民俗学の専門誌である Folklore 誌上にも *Lemna minor* and Jenny Greenteet 等の論文を発表している．

著者は多数の個人や機関に植物についての民間伝承等に関する情報提供を呼びかけてきた．本書はその成果であり，その目的をイギリス諸島の植物に関する民間伝承と，その伝統的な利用法－植物民俗学－についての信頼のおける情報源を提供することにあるとしている．収載された情報は一般的な民間信仰，伝統的な習慣の中での利用法，民間療法の中での利用法，その他の利用法，特定の個体に関する事例であり，各項目での記述は概ねこの順に従っている．

各項目（植物の場合は種であることもあれば複数の種であったり，属の場合等もある．植物以外では例えば漂着植物とか「のどの渇き」など）では，著者による注釈的な記述を伴うこともあるが，主体は出典が明記される収集された情報の記述である．従来のこの種の資料集にありがちであった信頼性の欠如に出典を明記することで解消を図ったといってよい．これは日本でのこの分野の出版でも学ぶべき重要な点であろう．

本書の序論として纏められた，「イギリス諸島における植物民間伝承の研究小史」は，民間伝承の研究史として手ごたえを覚える一方で，イギリス諸島における植物の研究あるいは地方植物研究の特色をも垣い間みることができ，植物学徒にも興味深いものである．民俗学と植物学の両方に深い造詣をもつヴィカリーなればこそのものである．

私は本書の原著は見ていないが，翻訳に当たっては，植物自体については無論，古英語，方言，俗語，ゲール語，ラテン語などの諸語へ理解，イギリス諸島の歴史・文化全般への深い造詣が欠かせない．これは実にたいへんなことであったことだろう．項目索引が植物の学名と和名，一般項目と3つあり，事典として機能を高めている．訳者の労ならびに出版不況が云われる中，このような貴重書を出版された八坂書房の見識に謝意を表したい．（大場秀章）

□植物地理・分類研究会：**各都道府県別の植物自然史研究の現状**．植物地理・分類研究 **50** (2): 143–262. 2002.

北陸の植物が発行されて50周年の記念号が出版された．当初からこの雑誌の出版の中心となった里見信生氏が2002年6月2日に亡くなられたため，前半は里見氏の追悼号に当てられている．後半は50年記念の企画として，都道府県ごとの植物自然史研究の現状を展望するものとなっている．植物誌，研究機関，標本庫，レッドデータブック，植物群落の見出しの下に，すべての都道府県から執筆者の寄稿を求めたものである．こうして一覧できるようになると，各地の現状がよくわかる．一度も植物誌が出版されていないところ（東京都）があったり，標本庫が確保されていなかったり機能していていない県（これは結構多い）があったり，自然ブームの中で基盤整備が国として立ち遅れている現状が記録されている．反面，レッドデータブックは刊行済みかここ数年内の予定がすべて立てられていて，順序が逆だったらよかったのにと思わせ